

1 学校教育目標

校訓	『常に善を追ひ求めよ 常に喜べ絶えず祈れ すべてのこと感謝せよ』～キリスト教主義による教育の展開～
めざす学校像	成長実感のもてる学校 ～「増えた・できた・広がった」が溢れる学び舎に～
教育目標	社会に貢献できる人材の育成

2 現状分析

令和5年度の入学生は189名、2年生は191名、3年生は171名で、全校生徒551名となり、生徒数は前年度比46名の減となった。少子化が進む中、本校第一志願入学者の増加を図るべく、教育内容の充実発展はもとより、部活動における優秀選手や学習成績優秀者の入学促進とともに、学力中低層でも明確な意欲を有する者の確保などに努めた。導入5年目の一般入試での成績優秀奨学生制度での入学は得られなかった。今後とも、より多くの人に本校の良さを知って頂けるよう学校行事等の積極的な地域公開、ホームページ等での情報発信を進める。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

- ① 学び続けるための基盤となるスキルと主体的な態度を育む[学び方を学ばせる、個に応じたICT活用学習で伸ばす、探究的な活動で主体性を育む]
- ② 自由で活発な活動の機会を確保し体験を伴う実践力を育む[人間関係を高める、密集密接の有効な活動を再開する、特別活動や部活動で伸ばす]
- ③ 変化する社会への対応力と社会貢献への意識と態度を育む[安全で適切なSNS活用へ導く、自己肯定感を高める、進路学習や地域交流で伸ばす]

4 自己評価

領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	意見・要望等	評価
学習指導	・基礎学力の向上 ・分かる授業、参加する授業の確立 ・探究学習の確立	・ICT教材について生徒の積極的な活用を促す。基礎力診断テストの振り返りを確実にし、成績下位層の底上げに繋げる。漢字テストに加えてタイピングテストを実施する。 ・授業研究の活性化と他校の公開授業への積極的参加と研究を行うと共に全員による公開授業を実施する。	4 総合実施率80%以上	3	・総合的な探究の時間について、1年普通科総合コースの年間指導を、教務の関りにより計画的に行うことができただけでなく、2年生においても担当教員の特性を活かした年間指導ができた ・公開授業については期間を延長したにも関わらず、実施数は減少した	・総合的な探究については複数年間での計画に期待したい ・公開授業には刷新的な取り組みが必要である	B
			3 総合実施率70%以上				
			2 総合実施率60%以上				
生徒指導	・社会性と道徳心の育成 ・目標に向かって努力できる生徒の育成 ・ルールの遵守と交通安全を常に心がける生徒の育成	・生徒指導アンケートやシグナルチェックによる情報収集に努め問題傾向を把握し具体的な指導方法を実践する。 ・過去のデータを基に年間指導計画を作成し月ごとに重点目標を定める。 ・交通事故と盗難の防止、校則の見直し	4 総合実現率80%以上	4	・警察(生活安全課、交通課)との連携や、自転車用ヘルメット着用義務化に向け取り組んだが、交通マナーは向上しなかった ・保護者や外部からの理不尽な要求が増加している ・頭髮服装指導における意識の温度差により生徒の不信感が増大している	・外部の評判、評価が高く、本校の強みとして今後更に充実させ定着を図っていく。	B
			3 総合実現率70%以上				
			2 総合実現率60%以上				
進路指導	・生徒の自己実現を図るための聖光キャリア教育を確立する	・アイデンティティ確立サポートにより、自信とやる気、未来を見つめる力を養う ・スキルアップサポートにより、向上心・キャリアアップにつながる力を養う ・進路実現サポート、対策・戦略サポートに取り組む	4 総合実現率80%以上	4	・Classroomでのキャリアパスポート配信により、振り返りの定着が見られた ・スマホ手帳の活用が拡大した ・求人票や受験報告書をデジタル化し、閲覧しやすくなった ・ガイダンスや模擬授業を年3回実施することができた	・進学の個別指導に要する時間が長く、関係教員の負担は大きい ・成果につながるつつある。	A
			3 総合実現率70%以上				
			2 総合実現率60%以上				
募集対策	・受験者数、入学者数、オープンスクール参加者数の増加 ・中学校・受験生に本校の見える化をはかる	・中学校訪問を強化し、今まで以上の信頼を得る ・ホームページの更新(スマホ対応)や学校案内を通して動画配信を行う	4 総合実現率80%以上	4	・学校案内や進路説明会で、動画を使用することで見える化が図れた ・中学校訪問により、中学校からの要望を吸い上げることができた	・学校要覧、学校案内の配布範囲の拡大 ・オープンスクール年2回開催の定着化 ・こまめな中学校訪問	A
			3 総合実現率70%以上				
			2 総合実現率60%以上				
業務改善	学校の組織等 学年会議・教科会議 協働体制の強化を図る	・教科会議による指導法の工夫と共有化の徹底 ・学年会議を軸にした共通・協働姿勢の強化	4 総合実現率80%以上	3	・最優先すべき教科指導の工夫改善が、多忙な中で、やや停滞気味である。 ・学年行事や生徒指導などでの学年団の協働姿勢は高く評価できる。	・今後も組織力の強化を図ることが更に必要である。	B
			3 総合実現率70%以上				
			2 総合実現率60%以上				
善	日常的な業務 校務の処理方法を見直し効率化を図る 勤務状態 網紀保持の徹底 教員の意識改革を図る	・事前の調整、起案・決裁等の文書事務の改善 ・管理職による啓発活動の促進 ・組織の一員として業務に向き合う姿勢の確立	4 総合実現率80%以上	3	・会議におけるペーパーレス化はほぼ達成した。 ・文書事務は改善しつつあるがより一層のチェック機能、情報の共有化を図る必要がある。	・業務を遂行する中で、工夫やアイデアが生まれつつある。	B
			3 総合実現率70%以上				
			2 総合実現率60%以上				
6 学校評価総括(取組の成果と課題)	① 学習面においては、導入から3年目となった一人一台端末の活用により、「スタディサプリ」、「すらら」といったICT教材を利用した学習を活性化させ、生徒の学習意欲・学習習慣の醸成と能力・適性に応じた学力向上に努めた。 ② 就職では、組織を挙げての求人活動・面接指導・受験指導(入社・大学入試)等に当たり、就職希望者の100パーセントの内定19年連続を達成し、大手企業を含め県内外へ人材を送り出した。進学においては、佐賀大学、北九州市立大学などへの合格を達成するなど、進学コースの進路実績として昨年度に引き続き成果を残した。 ③ 令和6年度入試では、推薦入試の改善を行ったことにより前年比15名増の志願者数となり合格者数はAO入試と合わせて前年比1名増の127名(うち1名入学辞退)となった。また一般入試においてはインターネット出願を導入し、志願者数は795名と昨年度を下回ったが入学者は前年比11名増の75名を確保し、計201名(12名増)の入学生となった。公立2次試験によって14名が入学を辞退したことだけでなく、地元ながら入学者数を大きく減らした中学校もあることから、選ばれる学校となるよう、更なる教育力の向上と生徒募集の工夫を求めていきたい。	7 次年度への改善策 ① 学び続けるための基盤となるスキルと態度を育む[学び方を学ばせる、ICT活用で個別最適な学びを実現する、探究的な活動で協働的に学ぶ] ② 心身の健康を保持増進する意識を醸成し実践力を育む[生活習慣の改善に取り組む、人間関係を高める、特別活動や部活動で伸ばす] ③ 変化する社会に対応し主体的な判断や行動ができる力を育む[安全で適切なSNS活用へ導く、自己肯定感を高める、地域交流で社会とつながる]					
			1 総合実現率60%未満	4	・教員は使命感や責任感が強く情熱もあり、労を惜みず取り組んでいる。 ・担当業務に関する個人のスキルが高いため担当者任せになりがちである。	・人権意識を高め、保護者が安心できる指導の実践を求める。	
			3 総合実現率70%以上				
2 総合実現率60%以上							
本年度の成果と課題を踏まえ、①による学習指導、②による心身の健康、③による社会性の構築に取り組む。							

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

① 学習面においては、導入から3年目となった一人一台端末の活用により、「スタディサプリ」、「すらら」といったICT教材を利用した学習を活性化させ、生徒の学習意欲・学習習慣の醸成と能力・適性に応じた学力向上に努めた。
② 就職では、組織を挙げての求人活動・面接指導・受験指導(入社・大学入試)等に当たり、就職希望者の100パーセントの内定19年連続を達成し、大手企業を含め県内外へ人材を送り出した。進学においては、佐賀大学、北九州市立大学などへの合格を達成するなど、進学コースの進路実績として昨年度に引き続き成果を残した。
③ 令和6年度入試では、推薦入試の改善を行ったことにより前年比15名増の志願者数となり合格者数はAO入試と合わせて前年比1名増の127名(うち1名入学辞退)となった。また一般入試においてはインターネット出願を導入し、志願者数は795名と昨年度を下回ったが入学者は前年比11名増の75名を確保し、計201名(12名増)の入学生となった。公立2次試験によって14名が入学を辞退したことだけでなく、地元ながら入学者数を大きく減らした中学校もあることから、選ばれる学校となるよう、更なる教育力の向上と生徒募集の工夫を求めていきたい。

7 次年度への改善策

- ① 学び続けるための基盤となるスキルと態度を育む[学び方を学ばせる、ICT活用で個別最適な学びを実現する、探究的な活動で協働的に学ぶ]
- ② 心身の健康を保持増進する意識を醸成し実践力を育む[生活習慣の改善に取り組む、人間関係を高める、特別活動や部活動で伸ばす]
- ③ 変化する社会に対応し主体的な判断や行動ができる力を育む[安全で適切なSNS活用へ導く、自己肯定感を高める、地域交流で社会とつながる]

本年度の成果と課題を踏まえ、①による学習指導、②による心身の健康、③による社会性の構築に取り組む。